

求めて已まぬ

理想の未来を掴みに行け！

松本蟻ヶ崎高校

2学年 学年・進路通信
第51号 2021.10.25

「広島昭和20年8月6日」

2週にわたって、TBSで2005年に放送されたドラマ「広島昭和20年8月6日」を視聴しました。皆さんの感想はいかがですか。あまりのでき事に、胸が潰れるような思いになるシーンがいくつもありましたね。思わず涙した人もいるのではないかと思います。

しーちゃんが海に向かって英語の歌を歌うシーンには、当時の人々の抑圧された思いが象徴されていたと思いますし(町中で歌えば、すぐに憲兵が飛んできて連行されてしまうでしょう)、朝鮮の人々への露骨な差別とそれによる萎縮した思いにも、考えさせられるものがありました(二人が逃げ込んだ中国人街は、当時はなかったのではないかという指摘もありますが)。放射性物質を多量に含んだ「黒い雨」の降りしきる中、矢島旅館を探して歩き回った重松さんは、恐らくその後無事ではいられないでしょうし(「黒い雨」を浴びたことによる被爆者認定については、つい3ヶ月前にも広島高裁で判決が出て、当時の菅首相は、上告せず被爆者手帳を交付することを決めました。このような人々にとっては、戦争は今も終わっていないといえるでしょう)、原爆の語り部として自分の体験を語り続ける年明さんには、真の意味での戦後はまだ来ていないのかもしれないかもしれません。また、理不尽なことを理不尽だと堂々と言える今の社会を私たちが手にするまでに、私たちより前の時代の人たちがどれほどの苦難の時代を乗り越えてきたかということにも考えさせられます。

広島平和記念資料館は、何度訪れても、その都度感慨を新たにできるところです。中学の修学旅行で訪れた人でも、高校生となった今訪れると、中学の時とはまた違った思いを抱くと思います。そして、20代、30代、40代と各年代によっても、その受け止め方や抱く思いは違うでしょう。初めての人も、何度目かの人も、この映画を見たことで、見る以前とはまた違う気持ちで平和記念公園を訪れることができると思います。年明さんが最後に訴えていた「過ちは繰り返させぬから」の文字を、目に焼き付けてきてください。

もうじき11月です

11月は、3年生にとっては学校推薦型入試が始まる時期です。皆さんの中にも、受験を考えている人がいるのではないのでしょうか。一口に推薦入試といっても、専門学校、短大、四大ではかなり内容が違いますし、大学によってもその内容やレベルはかなり違ってきます。

最近の卒業生の推薦入試の受験状況からすると、合格者は、専門学校・短大では受験者のほぼ100%、私立大や公立大では2～3人に1人(指定校推薦は除く)、国立大では4～5人に1人といったところだと思います。4年制大学では、結構な狭き門といえます。また、この受験の準備のためにかなりの労力を割かなくてはいけないことは、皆さんも何となく想像していることでしょう。毎年、推薦入試を受けると決めたものの、あまりの大変さに音を上げて、受験そのものへの意欲を失ってしまう人もいます(ただし、いくら意欲を失ったからといっても、推薦選考会を通った後に「やっぱりやめた」ということはできません。推薦入試を受験するかどうかについては、受験への準備も含め、自分にやり切れる力があるかどうかを慎重に判断して決めてください)。

ここ10年くらいの傾向として、国公立・私立を問わず、総合型選抜(旧AO入試)、学校推薦型選抜の定員は年を追う毎に増えてきています。特に、文部科学省が国立大学に対して、これらの入試の定員を3割程度まで確保することを要請したことにより、国公立大学で、これらの入試の定員が増え、一般入試の定員が減る傾向にあります。また、私立大学の中には、定員の半分以上をこれらの入試にあてているところもあります。



☆この通信を含め、学校からの配布物は必ず保護者の方にも見せてください。

入試の形態については様々ですが、一般的に、国公立大学では学力を試す入試が中心、私立大学では面接や小論文が中心となる傾向があります。つまり、総合型や推薦を問わず、国公立大学を受験するには確かな学力が必要になるといえます。また、国公立大学の方が、共通テストの受験が必須となっている入試が多いのも特徴です。このような型の入試では、総合型・推薦型ともに、合否がわかるのは2月になります。

このように見てくると、私立大学の方が入りやすいのではと思う人もいるかもしれません。それは、ある意味正解です。「ある意味」というのは、「どこでもよければ」ということです。

実は、この春の入試では、私立大学の46.4%が定員割れを起こしています(以下の数値は河合塾や東進のデータによる)。ただし、定員割れする私立大学の割合は21世紀初めから増加しており、ここ15年ほどは、常に40~47%程度を推移していました。それが、2017年度入試から始まった私立大学の入学定員の厳格化(大学の規模によって、入学定員を超過して入学者を受け入れる場合の割合を定め、それを超えた場合には、文科省からの補助金をカットする等のペナルティを与えるというもの。これによって、特に都市部の大規模大学では、それまでのように、定員を大幅に超えていても入学させることができなくなった)によって、昨年度は約31%にまで下がっていました。それが、この春一気に46.4%まで戻ってしまったということです。

この原因の一つには、私立大への志願者数が大幅に減少(対前年比87.8%、のべ50万人以上の減)したこと(ただし、減少はここ数年続いています)、その一方で合格者が約9万人増加したことがあります。これは、18歳人口の減少、浪人生の減少が大きく影響しています。また、別の要因としては、コロナ感染拡大の懸念により、都市部を敬遠したり、受験校を絞って出願する受験者が多かったこと、コロナ禍による家庭の経済状況の悪化なども考えられます。この減少幅は、都市部の難関私立においても同様です(国公立大でも減少はしていますが、対前年比約97%です)。

また、私立大の定員充足率は、大学の規模によっても違います。定員600人以上の大学では100%を超えていますが、600人未満では100%を切り、100人未満の大学では87%(80%未満の大学が4割)となっています(定員割れの短大は83.6%)。さらに系統

別では、「歯学」「薬学」の充足率の低さ(90%以下)が際立っています。

全体の志願者数が減れば、入試の倍率も下がり、合格するチャンスも増えるということはいえると思います。ただし、だからこそ大学選びは慎重に行わなければならない、そうなる人気が集中する大学は限られてくることにもなります。安易な選択をすると、場合によっては、皆さんが年をとる頃には母校がなくなっているということも十分にあり得ます。大学研究をしっかり行って志望校を選ぶ必要が、今まで以上にあるといえるのではないのでしょうか。

☆ 今後の予定(変更があるかもしれません)

- ・10月25日(月)~ 秋の読書週間、面接週間
 - ※ 50分授業:11月1日(月)まで
 - ※ 読書週間:11月5日(金)まで
- ・10月25日(月) 特①②③+月④⑤⑥
- ・10月30日(土) 3年生 銀河セミナー
- ・11月2日(火) 特①②③+火④⑤⑥
- ・11月6日(土) ベネッセ総合学力テスト(模試)
 - ※1, 3年生も模試
- ・11月7日(日) 第2回英語検定2次試験
- ・11月8日(月) 月①②③+特①②③
- ・11月9日(火) 一斉委員会
- ・11月15日(月)~17日(水) 研修旅行
- ・11月18日(木) 休業日(2年生のみ)
- ・11月19日(金)~11月23日(火) 自宅待機期間
 - ※ 11月19日(金)、11月22日(月)の授業は、オンラインで実施。
- ・11月24日(水)~26日(金) 定期考査IV
- ・11月29日(月)~1月14日(金) 3年生特編授業
- ・12月2日(木) 生徒総会
- ・12月4日(土) 第1回銀河セミナー
- ・12月4日(土)、5日(日)
3年生全統共通テストプレテスト



☆この通信を含め、学校からの配布物は必ず保護者の方にも見せてください。